

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

2025年9月30日

第33号

# すくらんぶる

## 活動情報

10/2 理事会

10/6 地域文化事業事務局会議

10/24 県内例会調整会議  
劇場代表者会11/1～11 コーディネイト事業  
「ぷっかりぽっかり」11/9 学習交流企画  
「仁科さん&つげさんの  
トークライブ」11/22 共催事業  
「バウムクーヘンとヒロシマ」

12/9 理事会

12/18 劇場代表者会

## 長崎県子ども舞台芸術祭典30周年特別企画

### 全体事後交流会

「げき×こども×ちいきの可能性  
～私たちはなぜ祭典を続けるのか～」

2025年8月1日(金) 13:30～15:30

東彼杵総合会館 教育センター 大会議室



長崎県子ども舞台芸術祭典は、1996年にスタートし今年30周年を迎えました。全公演終了後の全体事後交流会はコロナ禍以降実施していませんでしたが、今年は30周年特別企画として久しぶりに各地の主催団体、創造団体、推進スタッフが一堂に会して開催しました。オープニングはOHオフィスのKUROさんによる華麗なパフォーマンスに参加者一同魅了されました。

そして、地域文化事業の山口事務局長が聞き手になり、創造団体から3名と木下代表も加わってのトークセッション。テーマは「げき×こども×ちいきの可能性～私たちはなぜ祭典を続けるのか～」役者で参加した三人班公演は子どもたちとの真剣勝負だったと語られた劇団風の子九州の飯屋祐一さん。あそびを通して会場の子どものたちと関わりながら進む独特の舞台は、まさにわくわくドキドキ、日常のあそびにもつながる魅力をいつも感じます。



劇団風の子九州は長崎県祭典には第1回からの参加です。「よくぞ30回続けてきてくれました！」とお褒めの言葉をくださったつげくわえさん(くわえ・ぱべっとステージ)。長崎県祭典の形に「先見の明あり！」とも。30回を迎えるまでの道のりには迷いや陰しさもあり、それを心配してくださっていたからこそこの言葉は本当に心に沁みました。「最初の頃は心配だった」と率直に話してくださった北村直樹さん(人形芝居ひつじのカンパニー)。参加人数が何人なのかわからなかったり、想像以上の観客数に急ぎ客席を追加したり、冷房がない所もあったり…。でも、毎年継続していく中で“確実に進化している”と温かい言葉と気持ちで背中を押し続けてくださいました。すべての子どもたちに生の舞台を届けたいという私たちの思いを創造団体の方はしっかり受けとめ、それぞれ祭典への深い思いを語ってくださいました。若いお母さんたちと長年にわたり実行委員会を継続し、今やその子どもたちが大きくなってスタッフの一員へと成長していると語った木下美和子さん。現在は地域文化事業の代表も務めながら島原の“とことこ劇を観る会”のメンバーでもあります。子どもの成長は早い！と続けていくことの大切さを実感しています。

祭典30回の中で1年だけ中止を余儀なくされた2020年第25回祭典。この時期は劇団にとってもとても苦しかったと皆さん同じように話されました。「文化芸術は不要不急なのか」「必要とされていないのか」と葛藤の日々だったと。そして、まだまだコロナ禍が続いていた翌2021年第26回祭典は各地からの要望と推進メンバーの強い意志で再開することができました。コロナ禍の子どものたちの心の状態を心配していた私たちは、各地を公演してきた創造団体の皆さんから「子どもたちが以前より爆発的に盛り上がっていた」「みんな、心待ちにしてくれていたことがビンビン伝わってきたよ」と聞き、こんな時こそ舞台を観ることはさらに必要なんだとあらためて確信し、非常事態を乗り越え継続していく勇気をもらいました。

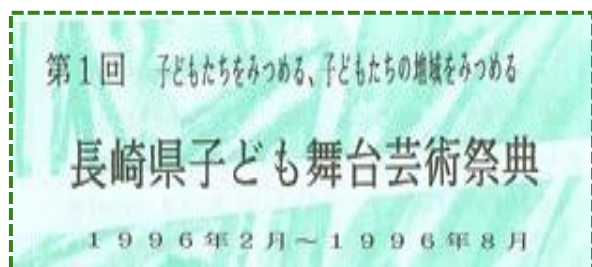
“たびら子どもの未来を育てる会”の太田さんは自ら発信して平戸地域に祭典を広げています。会場発言で「継続する中で作品が会場の一入ひとりに伝わる観客数があると知った」と言われました。またオンラインで参加した“みゅーでしゅーでかみしざ”の微笑さんは「昨年祭典を観て自分の地域でもやりたいと思い、今年公演を実現できて良かった」と言われました。長崎県の祭典はたった一人の「やりたい」という気持ちを実現できる素晴らしいしくみを創ってきたのだと実感しました。「私たちはなぜ祭典を続けるのか…」と問われた時、いろいろな答えが返ってくるような気がします。でも、げきは人と人をつなぐものだと思います。楽しいから笑顔になり、みんなと一緒に観るから楽しさが何倍にも膨らむ。げきは、まさに地域の大事な交流の営みです。今年は44公演が長崎県内で取り組まれました。まだ届いていない地域の子どものたちにも届けたい！と新たな気持ちが膨らんだ全体事後交流会でした。





## ★第30回長崎県子ども舞台芸術祭典 閉幕★

2025年7月17日～31日、11市7町、全39日37主催44公演、総参加者数 6,139 名。  
ご支援ご協力くださったみなさま、本当にありがとうございました！ 各地域窓口ごとの報告です！



### <佐世保窓口>

長崎県子ども舞台芸術祭典は、1996年から開催され、今年30年目を迎えることができました。

当時の佐世保市長 光武さん・児童文学者 斎藤きみ子さん・劇団風の子九州からのあたたかいメッセージを読み返しながら、「子どものための演劇・人形劇 県内一斉 100 ステージ」(1村 75 有人島)すべての子どもたちに生の舞台を!と書かれたリーフレットに胸が熱くなりました。

今年度の県北地域の公演は、13地域の皆さんに祭典を取り組んでいただくことができました。

1回目からずっと継続できていた小佐々実行委員会がコロナ感染予防でお休みし、今年、久しぶりに公演がきまり当日は“久しぶり～”の挨拶をかわし懐かしい気持ちでいっぱいになりました。

また、地域の中で人から人に繋げていくことが難しく、公演が途切れていた松浦で地域の皆さんの協力でお寺のご住職と奥様、そして5歳の娘さんが祭典を復活させてくださったのも大きな喜びです。

31回祭典に向けすでに動き始めた実行委員会もあります。酷暑の夏ですが、子どもたちや地域の皆さんに会えることを楽しみに来年も創造団体とおじゃまします!!

(佐世保子ども劇場事務局 白川朱美)



7/21 江迎子どもあそびの会



7/13 中津良地区 まちづくり運営協議会



7/26 in 中央実行委員会



7/22 たびら子どもの未来をそだてる会



7/27 かわたな親子で舞台芸術を 観ろう会





# 広がれ！長崎県子ども舞台芸術祭典！



～ 諫早窓口から見た第30回長崎県子ども舞台芸術祭典 ～

「げき×こども×ちいき～考え方を考えるだけで溢れ出てくるみんなの元気～」という西上寛樹さんの講演会で、子どもたちにとって集うこと共感しあうことが、地域で育つ安心感に結び付く。そのひとつとして、この祭典には大きな意味があるという思いを実行委員会に伝えながら、大村市・諫早市合わせて3作品7実行委員会10ステージが取り組まれた。実行委員会の形は、地域実行委員会、学童実行委員会、諫早子ども劇場、それぞれ特徴ある取り組みが見えた。

## <地域実行委員会>

### ○長崎県子ども舞台芸術祭典大村実行委員会○

第22回から頑張ってきた実行委員長から第30回は新たな実行委員長が立ち、実行委員も倍に増やして動き出した。ニューフェイスが加わることで活気づき、実行委員会ではアイデアも活発に出ていた。会話の中で、共通の知り合いがいたり、こっちに声をかけるから、こっちは任せるなど、共に取り組みを広げる力が沸き起こっている感じがかった。会場は今までとは違い、新幹線の駅に近い会場だったが、かえって親子連れが参加しやすかったようだ。公演当日に集い、ともに鑑賞するというのも大事だが、当日に向けて実行委員が集い、大村の子どもたちに思いをはせて話し合う時間がこの取り組みで大切なところだった。

### ○きてみんね！久山台実行委員会○

第9回に久山台子ども会が取り組んだことをきっかけに、第12回から実行委員会を立ち上げ第30回へと継続している。特徴的なのは、毎年子ども会役員とともに実行委員会をつくり、会議を積み重ね、子どもたちも巻き込んで当日を迎えるところだ。特に、子どもたちに製作を任せている看板は、今年も素敵なものができ上がっていた。地域のイベントでもなかなか任されない司会やもぎりなども子どもたちは大人顔負けでやり遂げてくれる。これは、自分たちの地域のコミュニティセンターで、地域の顔見知りの人たちとつくりあう空間の安心感があるからだと思った。



### ○諫早子ども劇場○

10代の子どもたちが起こす事件のニュースを聞いた時に、そういう行動に走らせるものは何なのか、周りの大人は何ができたのか、子どもたちの声を聴くとはどういうことなのか考えてしまう。今命について考えるきっかけ、いや命の誕生を喜び合えるきっかけとしてぴったりなのがこの作品！ということで、珠玉の名作（と、諫早では言っている）『あなたがうまれるまで』の取り組みを決めた。会員数より遥かに多い集客をしなければいけなかったが、劇場の会員はそれぞれ友だちや地域の人に声をかけ、懐かしい劇場OBたちも孫たちを連れて集い、当日は予想を上回る観客数。誕生シーンでは、あちこちから「がんばれー」「ガンバレー」という子どもたちの声が……。なんとも温かい公演だった。



## <学童の取り組み>

諫早窓口での学童の取り組みは、単独でというものがなく、2つ以上の学童が協力して子どもたちに鑑賞の機会をつくっている。

特に「夢と笑顔の王国」は、第9回に有志学童の取り組むことをきっかけに第13回から実行委員会の形にして取り組んでいる。取り組みの前後に学童の全体会において祭典での子どもたちの様子を伝え、取り組む学童の仲間を増やしている。複数の学童での取り組みは、役割分担をすることができ、指導の仕方や子どもたちの様子など刺激を受けあっているようだ。取り組みを重ねることで、先生たちの親交も深まっている。しかし、合同でするには大型バスで移動する学童が出てくる。今日大型バスのレンタル料が高騰し、取り組みの困難さを生み出していることは間違いない。

それでもなんとか子どもたちの観る機会は無くしたくないということで、第30回では夢と笑顔の王国からもう一つ実行委員会が誕生した。3つの小学校の学童が、バス移動をしなくても集える公民館で取り組んだ。7月に入ってから、もう少し参加者を広げたいということから、新しい学童にも声をかけ参加が膨らんでいった。

他にも喜々津小学校の4つのクラブの取り組み、御館山小学校の4つのクラブの取り組みがあった。同じ小学校に通う仲間と共に鑑賞できる機会になっている。

複数の学童での取り組みも、充実した当日を迎えるためには会議の積み重ねが大きいと感じる。それぞれの学童の状況や子どもたちに思いをはせて担当する役割を決め、様々な情報共有もスムーズにできていた。

保護者の参加も促したいが、難しい社会状況がうかがえる。その中で、子どもたちが舞台芸術と出会う機会を力を合わせて大切につくりあげている指導員のみなさんがいることを皆さんにお伝えしたい。





ながさき子ども劇場事務局・中村結花



## ＜県連窓口＞

県連窓口では、4作品6主催8公演を実施しました。取り組みの形は、地域の実行委員会、子ども劇場主催、保育園主催、教育委員会主催など異なりますが、子どもたちに生の舞台を観る機会をつくり続けたいと、地域の方々と連携した取り組みの工夫で、地域に文化の種をまき続けています。

## ☆地域の文化の灯をともし続けて♪

壱岐子ども劇場では、地元高校のヒューマンハート部の皆さんが当日の受付や会場係として関わってくれました。また、子どもたちが参加しやすいようにと子どもの参加費無料を祭典で初めて挑戦されました。当日は予想を上回る参加者の皆さんと「にっこりぽっかり座」を楽しみ、会場を出る子どもたちの“変顔”を楽しむ姿をたくさん見られたようです。対馬市教育委員会では、つしま親子で舞台を楽しむ会と共催し、厳原町と美津島町の2会場で開催を続けています。東彼杵町教育委員会では、文化協会の皆さんと一緒に、昨年に引き続き当日2公演を取り組まれました。また、教育委員会のコスモス大学を受講されている高齢者の皆さんも、子どもたちと一緒に舞台を楽しまれました。寺田保育園と厳原南保育園では、園といういつもの安心できる場所で、お友だちや先生と一緒に生の舞台を楽しむ機会をつくられています。寺田保育園では学童の子どもたちも一緒に参加していました。厳原南保育園では年長さん手作りのフォトフレームを演者にプレゼントしてくれました。



## ☆子ども実行委員 大活躍!!

島原市で「とことこ劇を観る会」として取り組んで13年。実行委員会に参加していた子どもたちは、最初は自分たちができるところをお手伝いしていました。そのうち子ども実行委員として話し合いにも参加するようになり、今では当日運営についても意見を出して主体的に関わってきています。これまで仕込みの間はホワイトボードに思い思いに絵を描いて楽しんでいましたが、今回チラシを片手に皆で描いていたのがウエルカムボードでした。また、演者へのプレゼントのクッキーは子どもたち発案の手作りで、チラシのイラストが飛び出てきたかのようなものでした。毎年祭典の取り組みを続ける中で、少しずつ自分たちがやりたいことを形にしてきた子ども実行委員。そしてそのやる気を頼もしく見守る大人の存在が、子どもたちの主体性と自信を育んでいくことを目の当たりにした今年の取り組みでした。

今回もどの会場にも、子どもたちの笑顔の花が咲き誇っていました。子どもの笑顔や笑い声は大人を元気にしてくれます。継続の力の源は、まさに子どもたちの笑顔と笑い声だと実感しています。来年もまたたくさんの笑顔の花を咲かせましょう!!



## ◆舞台コーディネイト事業(11/1~11) 全8公演実施予定 乳幼児作品「ぷっかりぽっかり」(くわえ・ぱべっとステージ)

| 日にち      | 主催団体      | 開演    | 会 場              | 日にち      | 主催団体       | 開演    | 会 場                |
|----------|-----------|-------|------------------|----------|------------|-------|--------------------|
| 11/ 1(土) | 佐世保子ども劇場  | 10:30 | まちなかコミュニティセンター   | 11/ 6(木) | 島原市こども課    | 10:00 | 島原市保健センター          |
| 2(日)     | 諫早子ども劇場   | 10:45 | 小栗ふれあい会館多目的ホール   | 7(金)     | 有家たちばなこども園 | 10:15 | 有家たちばなこども園         |
| 3(月祝)    | ながさき子ども劇場 | 11:45 | 市立図書館新興善メモリアルホール | 8(土)     | 桜花保育園      | 16:00 | 桜花保育園 0歳児保育室       |
| 5(水)     | ありあけ幼稚園   | 10:15 | 園敷地内 子育て支援室      | 11(火)    | 壱岐子ども劇場    | 11:00 | 芦辺町クオリティライフセンターつばさ |

## 子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

| 作品名(団体名)                         | 月日(曜)              | 開演時間  | 会 場                        | 主 催       |
|----------------------------------|--------------------|-------|----------------------------|-----------|
| ふくろうぼうや月夜のぼうけん<br>(くわえ・ぱべっとステージ) | 2025年<br>11月3日(月祝) | 15:00 | 市立図書館・新興善メモリアルホール<br>(長崎市) | ながさき子ども劇場 |
| バウムクーヘンとヒロシマ<br>(イツフォーリーズ)       | 11月22日(土)          | 16:30 | 市民会館文化ホール<br>(長崎市)         | ながさき子ども劇場 |
| クモばんぼとぎんのくつした<br>(劇団うりんこ)        | 12月13日(土)          | 17:00 | 西地区コミュニティセンター<br>(佐世保市)    | 佐世保子ども劇場  |
|                                  | 12月14日(日)          | 18:00 | 諫早文化会館中ホール<br>(諫早市)        | 諫早子ども劇場   |



**NPO法人  
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057  
長崎市大黒町 4-26  
北村第一ビル 303 号室  
TEL: 095-825-0533  
FAX: 095-825-6151  
E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

**県内子ども劇場**

ながさき子ども劇場  
TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場  
TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場  
TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場  
TEL: 0920-44-5010

**Web サイト**

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

**発行**

**NPO法人長崎県子ども劇場連絡会**

★ご意見・ご感想をお寄せください。

**★編集後記★**

30 年前県祭典を始めた当時は不登校やいじめの問題も深刻化しており、県内の子ども劇場でも子どもをとりまく状況を少しでも良くしていきたいと話していました。その後、長崎県内で子どもが子どもを殺害するという痛ましい事件も続き、子どもに関わる他団体とも一緒に講演会や学習会なども取り組んできました。

今回 30 年の祭典を振り返る時、子どもたちは親や友だち、地域の人たちと「げき」を観る空間の中で交流しかけがえのない時間をつくっていると確信することができました。「子どもたちを見つめる、子どもたちの地域を見つめる」を合言葉に、祭典を地域に広げようと頑張ってきた 30 年。生の舞台に出会うことは、子どもたちだけではなく大人の心も動かし、取り組みを通して大人同士がつながり思いが広がっていくを実感しています。さらに身近な地域での取り組みは、直接子どもたちの溢れる笑顔や笑いに触れ、それは地域の人たちを元気にもしてくれます。「げきXこどもXちいきの可能性」は、まだまだ広げられそうです。

これまで祭典を続けてこられたのは、私たちと同じように子どもたちのことを思い、苦勞をいとわず公演の取り組みを続けてきた方々がいたからです。また祭典を共に創ってきた創造団体やご支援いただいた皆さまにも感謝しています。そして、これからぜひ、子どもたちのことを語り合いながら一緒に祭典を続けていきましょう！（T）



**<学習交流企画>**

**「仁科さん&つげさんのトークライブ」**

♪と き 2025年 11月9日(土)

10:30~12:30

♪ところ 諫早市立図書館 視聴覚ホール

♪資料代:1000 円(アーカイブ含む)



「クモばんぱとぎんのくつした」(劇団うりんこ)の原作者であり絵本作家の仁科幸子さんと、この作品の演出を手がけたくわえ・ぱぺっとステージのつげくわえさんのトークライブ！ テーマは、自己肯定感。自分自身が自分を認められるようになったらいいな～。作者が作品に、演出が作品づくりに、込めたおもいをお聞きします。子どもに関わる多くの方に聞いてほしいトークライブです。

お二人のお話を聞いたあとに、グループに分かれての感想交流、さらに全体での交流と参加のみなさんにもおしゃべりの時間があります。ぜひお誘いあわせの上、お越しください。



**団体概要**

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に 2002 年に N P O 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネート、講演会や学習会などの事業を行っています。

**子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！**

**私たちは子どもの文化を応援します。**



|                                                                                    |                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>社会福祉法人 小野保育園</b><br/>諫早市小野町 676-2<br/>TEL0957-23-0120</p>                    | <p><b>ダイハツチバナ</b><br/>有限会社 <b>林田車体工業</b><br/>〒854-0126 諫早市松里町 288<br/>TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378</p>              |
| <p><b>ますみクリニック</b><br/>〒850-0952 長崎市戸町 2 丁目20-57<br/>OKホーム&amp;ガーデン戸町店横 弁慶バス停前</p> | <p><b>古豊歯科医院</b><br/>長崎市小峰町 3-16<br/>☎ 095-843-4165</p>                                                                  |
| <p><b>ホテル ウイング・ポート 長崎</b></p>                                                      | <p>〒854-0072 諫早市永昌町43-6<br/><b>医療法人 マツオ内科クリニック</b><br/>TEL 0957-25-2225<br/>FAX 0957-25-2220</p>                         |
| <p><b>九州商船</b><br/>長崎市元船町16番12号<br/>TEL 095-828-3125</p>                           | <p><b>長崎和泉屋</b><br/>雲仙市愛野町乙 5864<br/>☎ 0120-54-1238<br/>月曜～土曜 受付時間 9:00～18:30<br/>FAX 0956-58-3637<br/>24時間受付 (年中無休)</p> |